

事業所における自己評価結果(公表)

事業所名: ピュアの樹がっけん

事業: 児童発達支援事業

公表日: 令和5年3月31日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制設備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		SI遊具の配置	個別療育支援なので、スペースは十分だが、遊具の配置など危険がないように配慮している。
	② 職員の配置数は適切である	5			今後加配はほしいと思っている。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5			プログラム、生活面へは視覚的にわかりやすく提示している。また、プログラムは構造化している。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			感染症も流行っているので毎日掃除、アルコール消毒している。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			こどもに対しての特性理解と目標、振り返りは日々励行している。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			業務改善に向かっている。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			公表している。HPで見れる。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2			本部、保育園、管理者に常時評価頂いている。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			事業所内研修会をしている。週1の研修会。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			児童発達支援管理責任者が責任を持って分析し作成している。必ず記入し記録を残している。担当者を分けている。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			厚労省のマニュアルツールを参考にしている。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			「地域支援」の項目に関して未だ具体的な支援内容を設定していない。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			沿っている。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	5			チームで施行。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないように工夫している	4			固定化しないように工夫している。月1~2回変更。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			個別療育で施行している。3名程度のグループ療育もやり始めている。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			打ち合わせや振り返りを行なっている。
⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	4			共有している。	

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			記録はきっちりとして支援の検証改善につなげている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			判断している。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			参画している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4			連携している。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				該当者なし。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えている				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			年長児に対し、3月に小学校へ行き、引継ぎをしている。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			相談支援員を介しておこなっている。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3			受けていない。相談支援員との連携を深めている。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	1		交流としては大いにしている。コロナでチャンスなし。保育園内に設置されているところから他児とのかわりを大切にしている。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	1		今後、積極的に参加していきたい。年3回あすなろの連絡会に出席。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			共通理解出来るように常に話し合い伝え合っている。連絡帳にて共通理解に保つ。
	保護者への説明責任等	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		
㉜		運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			契約時に丁寧に説明している。
㉝		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	2			説明し、同意を得ている。
㉞		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			できる限りの助言、支援はしている。
㉟		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1		積極的に開催している。
㊱		子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			迅速に対応している。
㊲		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	1		今後、積極的に発信していきたい。
㊳		個人情報の取扱いに十分注意している	3			十分注意している。
㊴		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3			視覚的に出来るだけ構造化させて伝えている。
㊵		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1		今後、積極的にしていきたい。子育て相談。すまいる一む設置。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2			まだしていなが、保育園内でしているのですべて保育園に準じてしている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			保育園の月1回訓練に参加している。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	3			個人情報シートに記入してもらい把握している。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされている	1	1		食事提供していない。保護者と連絡をとって把握している。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3			共有している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3			適切対応している。動画・外部研修を行う。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	1			現在、該当する子どもはいないが、今後、組織的判断をしていく。動画・外部研修を行う。